

## 第102回理事会を開催 8月・世界大会までの活動を確認

県原水協は24日、ロードビルで第102回理事会を開催、世界大会までの活動方針について確認しました。理事会には各地から34人が参加。方針では、①6・9行動など街頭行動をコロナ禍に対応しながら行い、「ヒバクシャ国際署名」をすすめる②オンラインで開催される2020年世界大会と、同時に8月6日から9日まで行われる“平和の波”を成功させる③新しい「学習パンフレット」の大量普及と学習をすすめる④組織と運動を支える募金活動を展開する⑤「核兵器禁止条約」成立3周年を記念する街頭行動に取り組むことなどが提案され、承認されました。また、広島市が広島駅と八丁堀地区を「特定都市再生緊急整備地域」に指定するよう内閣府に申請していた件につき、



内閣府が「パブコメ」を募集しており、これに反対するパブコメを出すよう要請がありました。特にこのなかで、多数の市民が原爆の犠牲になった跡地である平和大通りの緑地帯に常設の「カフェ」などを設置して「にぎわい」づくりをうたっていることは、「かき船」と同じ発想であり、大きな問題です。

討論では7人が発言。東広島市は数年来続けている「原爆展」を、今年は高校生の描いた「原爆の絵」を展示、今年安芸津町でも開催を目指していることを紹介。新

婦人は、医労連から要請のあった「マスク」のカンパについて、集まらなくてもできる活動としてみんなで取り組み、1千枚近くを届けたことを報告しました。民医連からは、コロナ対応で経営にも大きく影響するなか、必死に医療活動を続けていること、国民の収入が激減するなか、国保料の減免や窓口負担軽減などの運動が大切と報告がありさらに、安芸地区原水協からは、3月に陸自第13旅団が白昼、携銃行進したことに抗議の申入れをしたことが報告されました。被団協からは、コロナ感染拡大で修学旅行などがすべて中止・延期になり、財政にも影響が出かねないという深刻な発言もありました。理事会は最後に、世界大会と「平和の波」「国民平和大行進」の成功、「ヒバクシャ国際署名」の推進、「原爆展」の取り組みなど訴える決議を採択して終了しました。（写真は開会挨拶する森代表理事）

## 国民平和大行進県実行委員会開く

理事会の後、「国民平和大行進県実行委員会」が開催され、コロナ感染拡大の状況も考慮しながら、基本は従来通りの行進を行う準備をしていくことを確認しました。そして、各地域の実状も考慮しながら、地域ごとの調整をはかり、必要であれば広島市からの支援をきちんと行っていくことなどを確認しました。